

(別添)



「不登校を考えるアンケート（保護者向け）」集計結果

◎この資料は、

「不登校を考えるアンケート（保護者向け）」結果報告

https://miraitizu.com/wp-content/uploads/survey_2025.pdf

の別添である集計結果です。

概要については、上記結果報告をご参照ください。

実施主体：先輩ママたちが運営する不登校の道案内サイト「未来地図」

(以下『未来地図』)

実施時期：2021年2月27日 ～ 3月26日

対象：現在小学生以上の、不登校または不登校経験のある子どもの保護者。

実施方法：インターネット調査。

『未来地図』サイト上にアンケートのページを設け、「お知らせ」のページやSNS、口コミを通してアンケートへのご協力をお願いを呼びかけました。

周知文：<https://miraitizu.com/16613>

質問文（全文）：<https://miraitizu.com/wp-content/uploads/q.pdf>

又は、右のQRコードより表示

回答数：回答数1,064件（子ども1人につき1件の回答）



<著作権について>

このアンケートの内容及び結果(文章・グラフ)、報告書についての著作権は、『未来地図』に帰属します。この調査は、不登校の経験のある子どもの保護者の声を、子どもと保護者を支える多くの方々に活用していただくことを目的としています。そのために、以下の点をお守りいただく場合に限り、このアンケートの内容の引用や転載、印刷などの二次利用をしていただくことが可能です。

①「先輩ママたちが運営する不登校の道案内サイト『未来地図』」より転載したこと

②『未来地図』のホームページアドレス(<https://miraitizu.com/>)を明記すること

【問い合わせ先】 info@miraitizu.com

この集計結果ならびに報告書をご活用いただいた際に、ご連絡をいただけますとありがたいです。

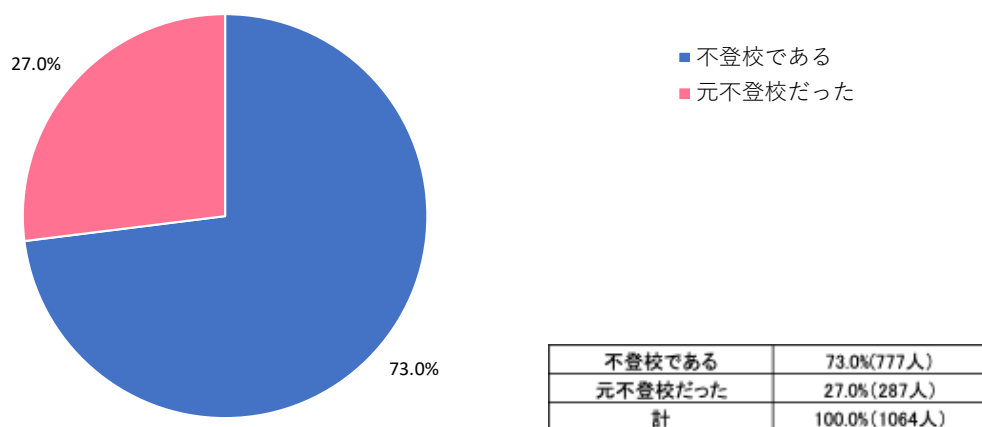
〔別添〕

＜ 目次（各項目をクリックすると、リンク先に移動します） ＞

(1) 現在不登校か、元不登校か	…3
(2) 子どもの年齢	…3
(3) 子どもが経験した学校	…4
(4) 学校に行っていない時期	…5
(5) 学校に行っていない時期は、どこで過ごしているか	…6
(6) 「不登校の要因」について保護者が当てはまると思うもの	…8
(7) (6)のうち、最も当てはまると思うもの	…11
(8) 子どもの不登校により、保護者が困っていること	…15
(9) 子どもの不登校により、保護者が困っていること（詳細）	…17
(10) 学校に対して、保護者が望むこと	…18
(11) 学校に対して、保護者が望むこと（詳細）	…20
(12) 不登校について誰に相談しているか	…21
(13) 新型コロナ感染症が子どもに与えた影響	…23
(14) 保護者が理想とする学びの場についての具体的なイメージ	…24
(15) 今まで受けた支援や配慮で嬉しかったことや改善されたこと	…25
(16) 兄弟姉妹がいることや、いないことで困っていること	…26
(17) 子どもが元気になったきっかけ	…27
(18) 不登校全般についての意見	…28

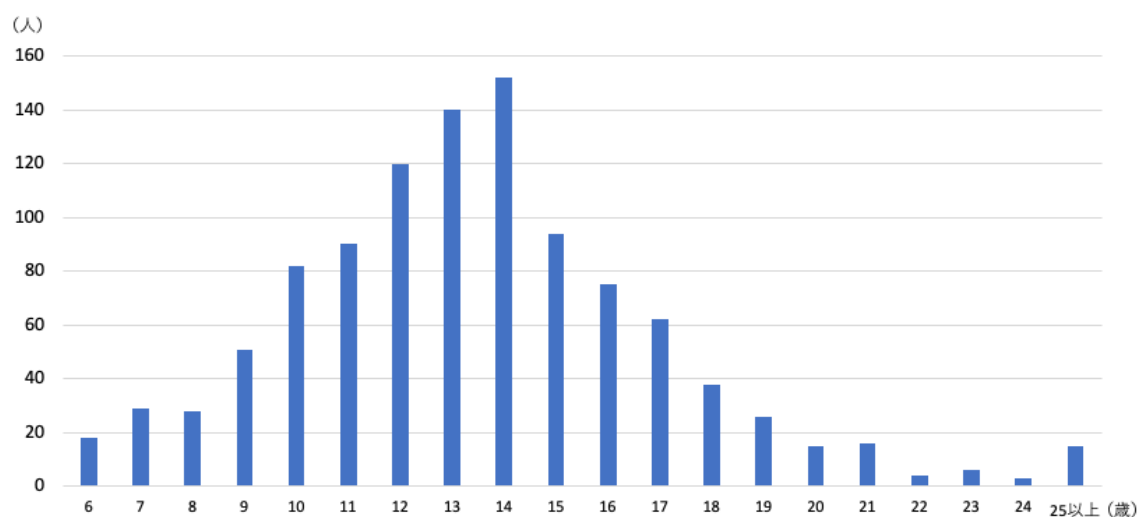
〔別添〕

(1) アンケートにお答えいただいている時点での、お子さんの状況【必須】



〔図1〕 現在不登校か、元不登校か

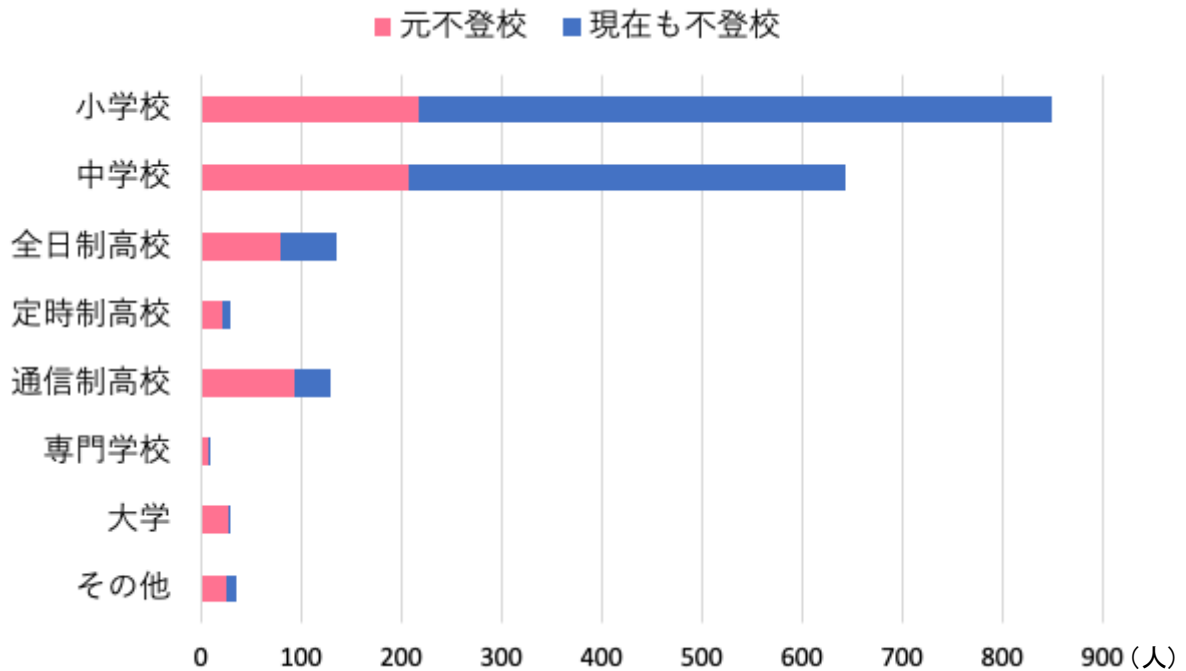
(2) 2020年4月2日時点での、お子さんの年齢を教えてください。【必須】



〔図2〕 子どもの年齢

〔別添〕

(3) 下記の中で、お子さんの経験した学校を教えてください。(複数選択可)



〔図3〕子どもが経験した学校

※その他：留学 (NZ)、大学院、支援学校、単位制高校、高等専修学校、高卒認定取得、通信制大学、アメリカ日本語補習校 など

※その他についての全記述内容 (別紙①) については、リンク先またはQRコードをご参照ください。

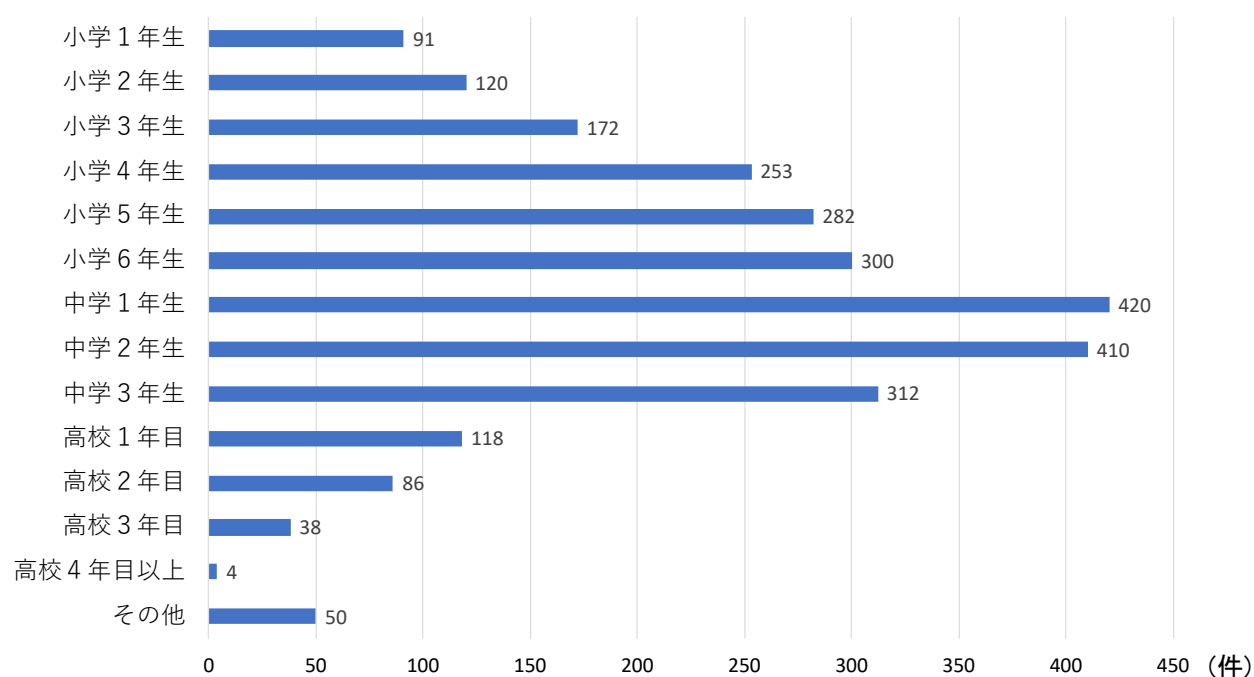
https://miraitizu.com/wp-content/uploads/3_all_2104.pdf



〔別添〕

(4) 学校に行っていない時期、または行っていなかった時期を教えてください。

【複数回答可】



〔図4〕 学校に行っていない時期

※その他：幼稚園、高校中退、休学中 など

※その他についての全記述内容（別紙②）については、リンク先またはQRコードをご参照ください。

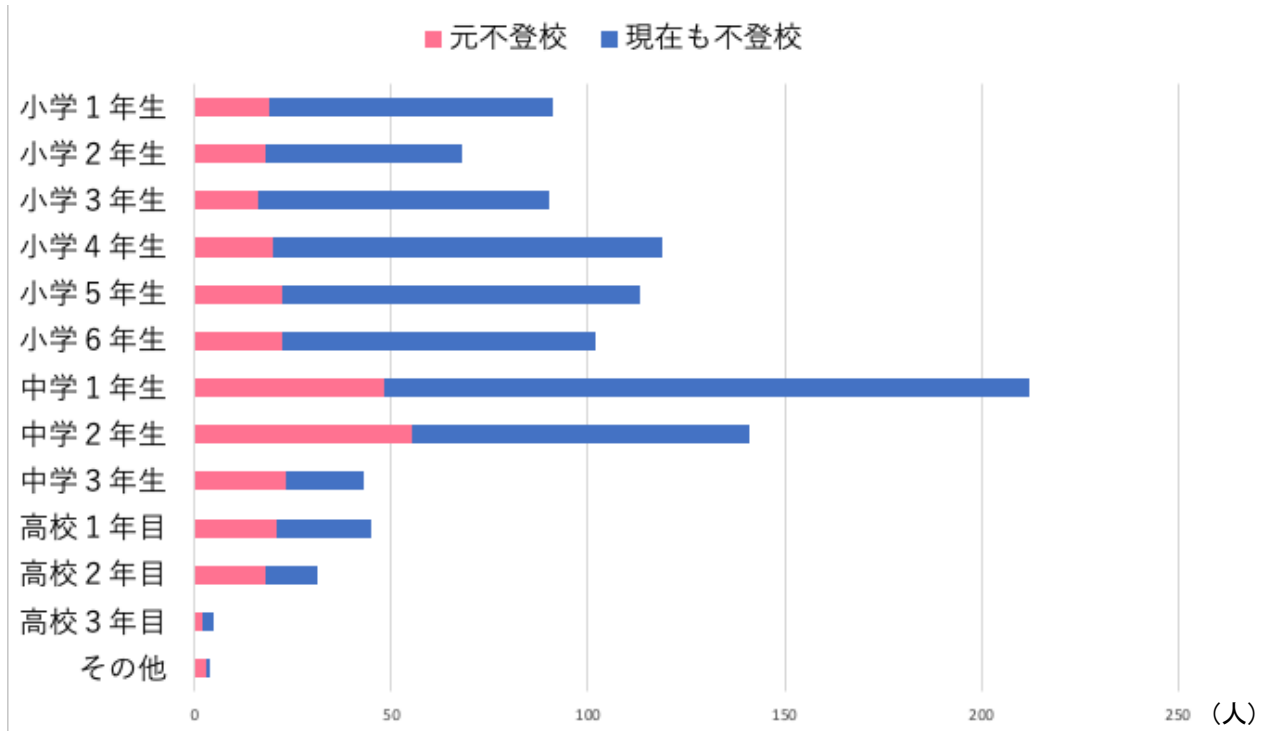
https://miraitizu.com/wp-content/uploads/4_all_2104.pdf



〔別添〕

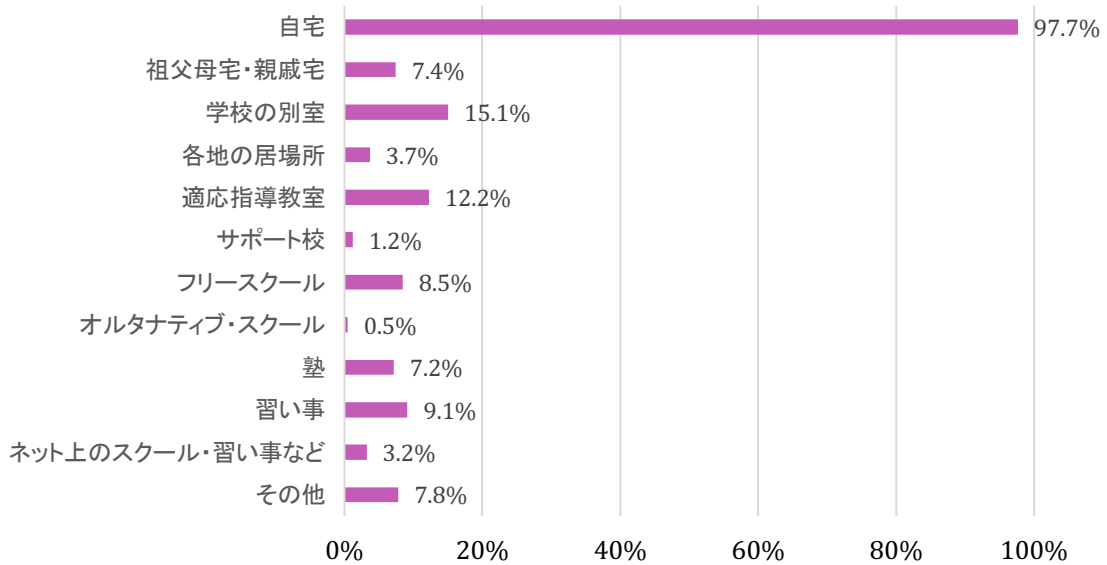
●不登校が始まったと思われる時期

※(4)の「学校に行っていない期間」の最初の学年



〔図5〕不登校が始まったと思われる時期（学年）

(5) 学校に行っていない時期は、どこで過ごしているか（どこで過ごしていたか）を教えてください。【複数回答可】



〔図6〕学校に行っていない時期に過ごしている場所

※適応指導教室＝教育支援センター

〔別添〕

※その他：放課後等デイサービス、学童保育、病院のカウンセリング、家庭教師、プレイパーク、親子でめっちゃ遊びに行きました、保護者の職場、インターナショナルスクール、ボランティア、アルバイト、アフタースクール、NPOの訪問支援、図書館、通級指導教室、ホームスクーラー向けのスリースペース、思春期病棟の不登校プログラム、友人宅、時々放課後に登校、博物館や自然の中などにおでかけ、保護犬カフェ、人が少ない平日にたくさんお出かけをした、知人の店、前の通級の先生の勤務先を訪問、保育園を訪問、クリニックに併設のショートケア、スポーツジム、療育移設、小児精神科のデイケア、児童精神科に入院した、教育相談室のカウンセリングや個別学習、史跡めぐり、地元の有志サロン、病院のカウンセリング、趣味のサークル、小児精神科入院&院内学級、整体、公園、畑 など

※自由記載の中にある以下のものは、それぞれ下記として集計に含めた。

保健室 → 学校の別室

地元の有志サロン → 各地の居場所

教育支援センター、市の教育センター → 適応指導教室

※その他についての全記述内容（別紙③）については、下記リンク先またはQRコードをご参照ください。

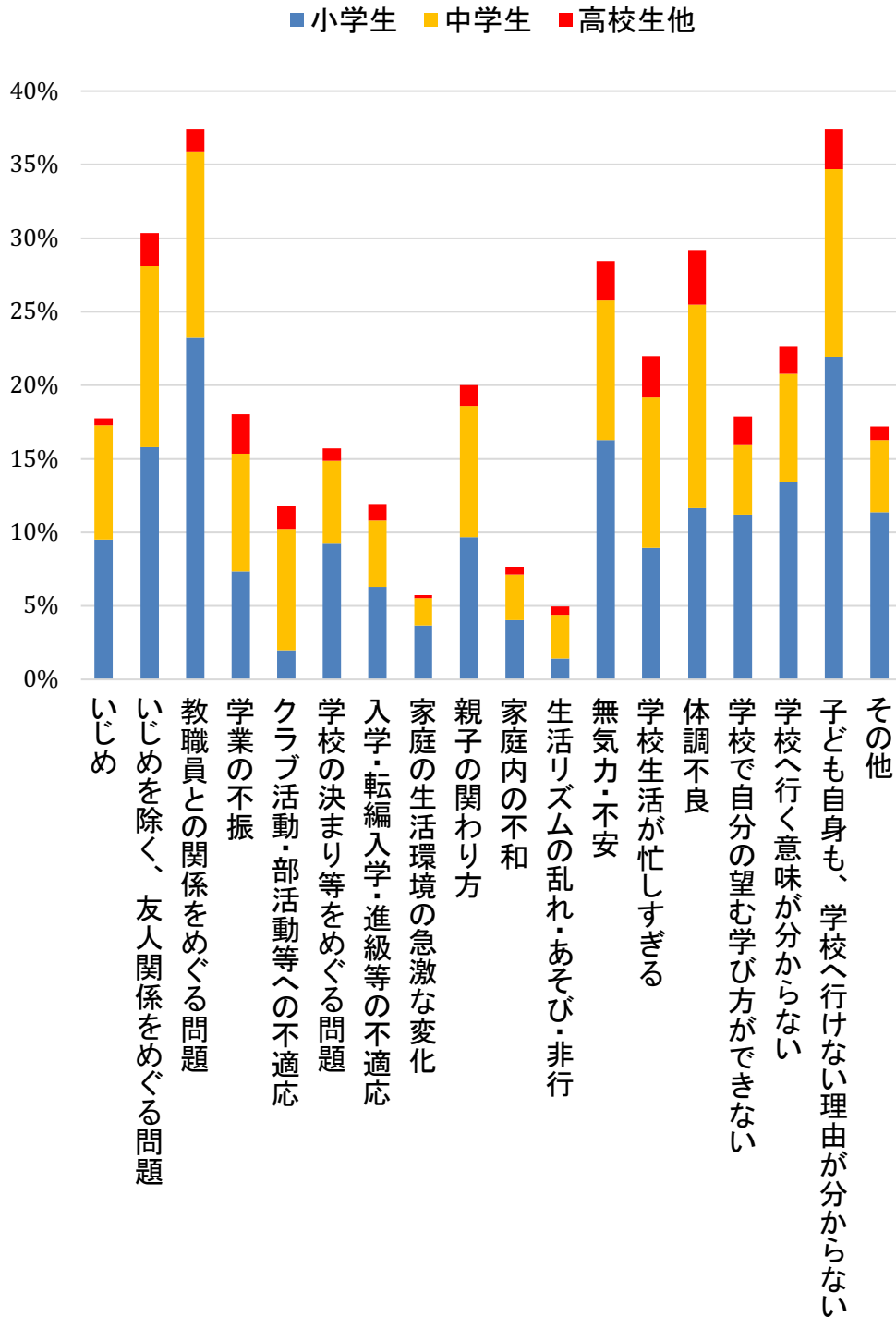
https://miraitizu.com/wp-content/uploads/5_all_2104.pdf



〔別添〕

(6) 「不登校の要因」について、保護者の方が当てはまると思うものを教えてください。【複数回答可】

※(3) 学校に行っていない時期の最初の学年をもとに学校を分類



〔図7〕 「不登校の要因」について保護者が当てはまると思うもの (複数回答)

〔別添〕

〔表1〕 「不登校の要因」について保護者が当てはまると思うもの（複数回答）

（単位：人）

	全体 (1,064)		小学生 (583)		中学生 (396)		高校生他 (85)	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
いじめ	189	17.8%	101	17.3%	83	21.0%	5	5.9%
いじめを除く、友人関係をめぐる問題	323	30.4%	168	28.8%	131	33.1%	24	28.2%
教職員との関係をめぐる問題	398	37.4%	247	42.4%	135	34.1%	16	18.8%
学業の不振	192	18.0%	78	13.4%	85	21.5%	29	34.1%
クラブ活動・部活動等への不適應	125	11.7%	21	3.6%	88	22.2%	16	18.8%
学校の決まり等をめぐる問題	167	15.7%	98	16.8%	60	15.2%	9	10.6%
入学・転編入学・進級等の不適應	127	11.9%	67	11.5%	48	12.1%	12	14.1%
家庭の生活環境の急激な変化	61	5.7%	39	6.7%	20	5.1%	2	2.4%
親子の関わり方	213	20.0%	103	17.7%	95	24.0%	15	17.6%
家庭内の不和	81	7.6%	43	7.4%	33	8.3%	5	5.9%
生活リズムの乱れ・あそび・非行	53	5.0%	15	2.6%	32	8.1%	6	7.1%
無気力・不安	303	28.5%	173	29.7%	101	25.5%	29	34.1%
学校生活が忙しすぎる*	234	22.0%	95	16.3%	109	27.5%	30	35.3%
体調不良*	310	29.1%	124	21.3%	147	37.1%	39	45.9%
学校で自分の望む学び方ができない*	190	17.9%	119	20.4%	51	12.9%	20	23.5%
学校へ行く意味が分からない*	241	22.7%	143	24.5%	78	19.7%	20	23.5%
子ども自身も、学校へ行けない理由が分からない*	399	37.5%	234	40.1%	136	34.3%	29	34.1%
その他	182	17.1%	120	20.6%	52	13.1%	10	11.8%
無回答	6	0.5%	0.3%	2	0.5%	1	1.2%	0.3%
総回答数	3795	-	1990	-	1486	-	317	-

※「*」がついている選択肢は、このアンケートで独自に設けたもの。無印は文部科学省「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の課題に関する調査（以下、諸課題調査）」と共通のもの。

※諸課題調査の選択肢にある「進路に関わる不安」について、このアンケートの質問紙を作成する際に、意図せず未収載としてしまいました（P.14参照）。比較の際には、ご注意ください。

〔別添〕

その他：

- ・コロナの休校により神経症を発症した
- ・HSCで学校のうるささ等がしんどくなった為
- ・小学校のクラブ活動で何かあった様だが、本人が絶対に話してくれない
- ・毎日担任が他の子に対して激しい叱責を行うのを目にしたことなど
- ・場面緘黙症
- ・色々な要因が複合的に作用
- ・発達障がいによる困りごとが多い、
- ・人間関係、受験勉強で無理をした
- ・頑張りすぎた
- ・起立性調節障害で朝起きれず
- ・元々学校というスタイルが合わなかった
- ・細かい事は色々ありながら本人は学校が怖いと言っていました
- ・先生や部活の先輩からの叱責で深く傷つく

など

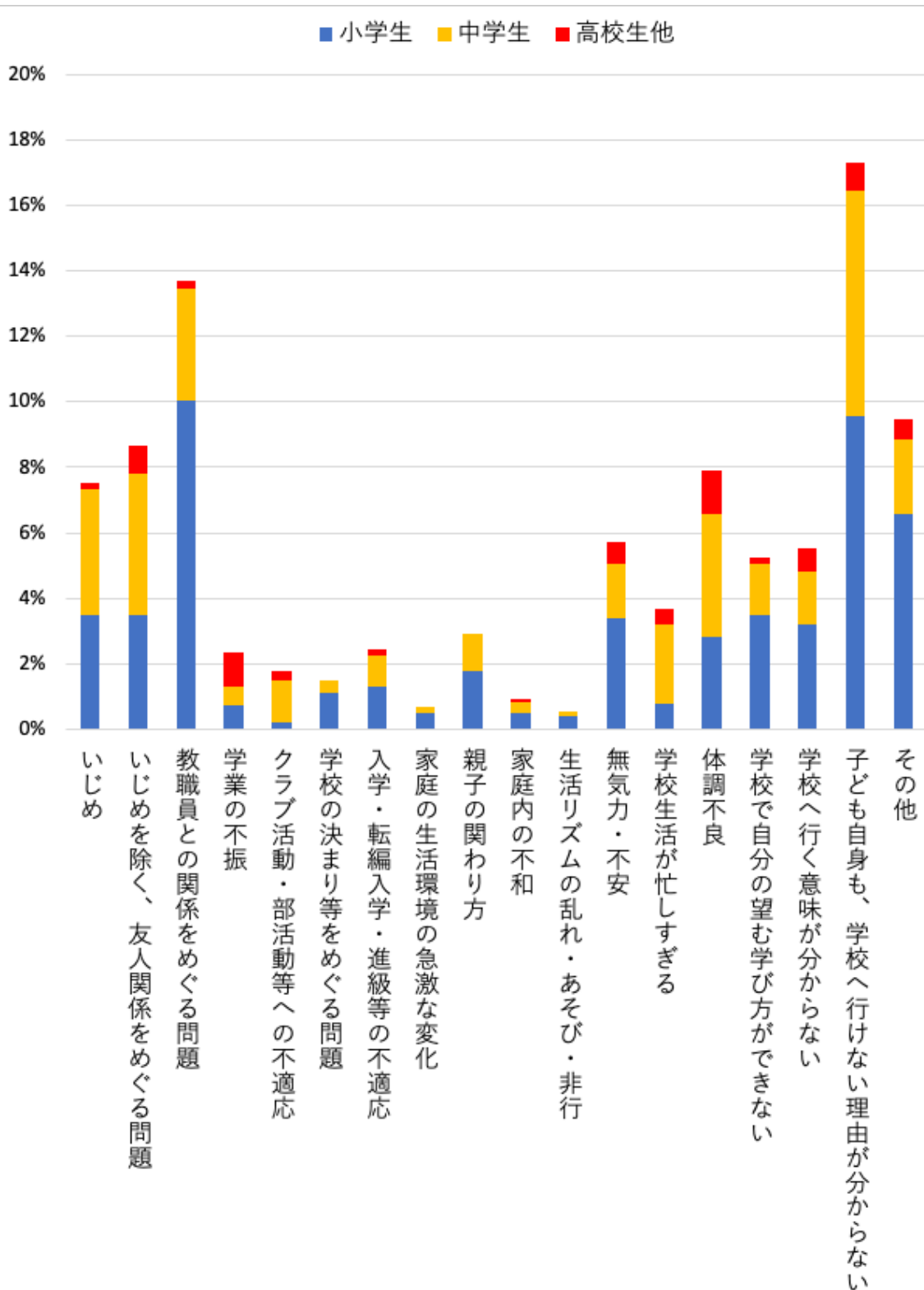
※その他についての全記述内容（別紙④）については、リンク先またはQRコードをご参照ください。

https://miraitizu.com/wp-content/uploads/6_all_2104.pdf



〔別添〕

(7) (6) で選んだ項目のうち、最も当てはまると思われるものを1つ選んでください。



〔図8〕 「不登校の要因」の中で保護者が最も当てはまると思うもの

〔別添〕

〔表2〕 「不登校の要因」の中で保護者が最も当てはまると思うもの

(単位：人)

	全体 (1064人)		小学生 (583人)		中学生 (396人)		高校生他 (85人)	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
いじめ	80	7.5%	37	6.4%	41	10.4%	2	2.4%
いじめを除く、友人関係をめぐる問題	92	8.6%	37	6.4%	46	11.6%	9	10.6%
教職員との関係をめぐる問題	146	13.7%	107	18.4%	36	9.1%	3	3.5%
学業の不振	25	2.3%	8	1.4%	6	1.5%	11	12.9%
クラブ活動・部活動等への不適応	19	1.8%	2	0.3%	14	3.5%	3	3.5%
学校の決まり等をめぐる問題	16	1.5%	12	2.1%	4	1.0%	0	0.0%
入学・転編入学・進級等の不適応	26	2.4%	14	2.4%	10	2.5%	2	2.4%
家庭の生活環境の急激な変化	7	0.7%	5	0.9%	2	0.5%	0	0.0%
親子の関わり方	31	2.9%	19	3.3%	12	3.0%	0	0.0%
家庭内の不和	10	0.9%	5	0.9%	4	1.0%	1	1.2%
生活リズムの乱れ・あそび・非行	6	0.6%	4	0.7%	2	0.5%	0	0.0%
無気力・不安	61	5.7%	36	6.2%	18	4.6%	7	8.2%
学校生活が忙しすぎる*	39	3.7%	8	1.4%	26	6.6%	5	5.9%
体調不良*	84	7.9%	30	5.2%	40	10.1%	14	16.5%
学校で自分の望む学び方ができない*	56	5.3%	37	6.4%	17	4.3%	2	2.4%
学校へ行く意味が分からない*	59	5.5%	34	5.8%	17	4.3%	8	9.4%
子ども自身も、学校へ行けない理由が分からない*	184	17.3%	102	17.5%	73	18.4%	9	10.6%
その他	101	9.5%	70	12.0%	24	6.1%	7	8.2%
無回答	22	2.1%	16	2.7%	4	1.0%	2	2.4%
合計	1064	100.0%	583	100.0%	396	100.0%	85	100.0%

※「*」がついている選択肢は、このアンケートで独自に設けたもの。無印は諸課題調査と共通のもの。
 ※諸課題調査の選択肢にある「進路に関わる不安」について、このアンケートの質問紙を作成する際に、意図せず未収載としてしまいました(P.14参照)。比較の際には、ご注意ください。

〔別添〕

その他：

- ・ コロナではないかとTwitterで攻撃された
- ・ 学校が好きでない
- ・ 最もはわからない
- ・ 集団生活の恐怖
- ・ 発達障害に関連した適応障害
- ・ HSCによる敏感さ
- ・ 場面緘黙症による二次障害
- ・ 学校自体が合わない
- ・ 現在の理由はさっぱりわからない
- ・ わけのわからない校則、同調圧力への嫌悪、大勢で学ぶことに関するストレスなど
- ・ コロナ休校になったら、頑張れなくなってしまった

など

※その他についての全記述内容（別紙⑤）については、リンク先またはQRコードをご参照ください。

https://miraitizu.com/wp-content/uploads/7_all_2104.pdf



〔別添〕

【参考】令和元年度諸課題調査「不登校の要因」（主たるもの）

〔表3〕不登校の要因（主たるもの）

「令和元年度 児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果について」より

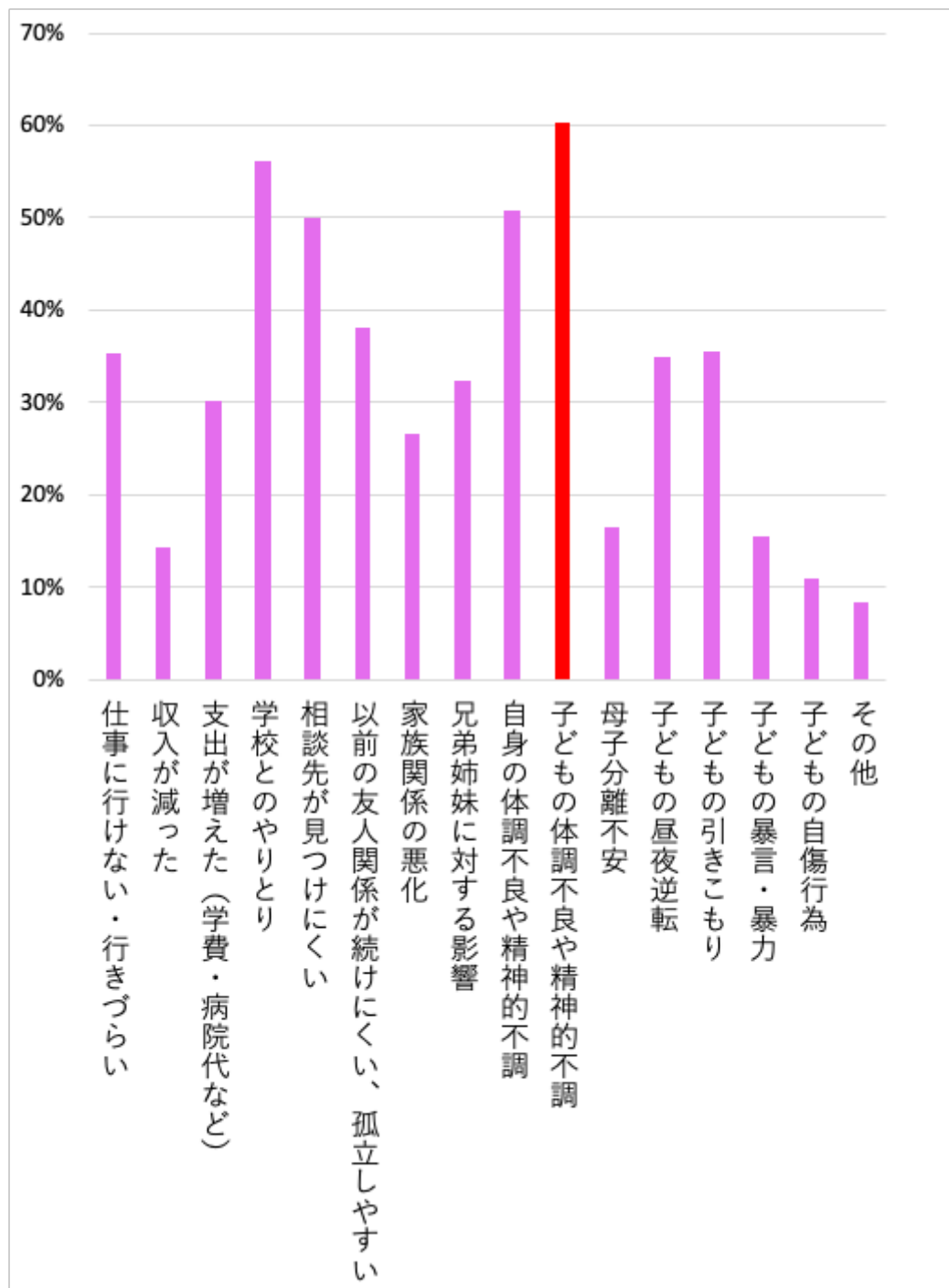
（単位：人）

	小学校 (53,350)		中学校 (127,922)		高校 (50,100)	
いじめ	233	0.4%	330	0.3%	132	0.3%
いじめを除く、友人関係をめぐる問題	5430	10.2%	21975	17.2%	6058	12.1%
教職員との関係をめぐる問題	1297	2.4%	1555	1.2%	288	0.6%
学業の不振	2301	4.3%	10830	8.5%	3580	7.1%
進路に関わる不安	175	0.3%	1606	1.3%	2460	4.9%
クラブ活動・部活動等への不適応	32	0.1%	1183	0.9%	464	0.9%
学校の決まり等をめぐる問題	596	1.1%	1462	1.1%	668	1.3%
入学・転編入学・進級等の不適応	1139	2.1%	4988	3.9%	3953	7.9%
家庭の生活環境の急激な変化	1939	3.6%	3696	2.9%	996	2.0%
親子の関わり方	8898	16.7%	9555	7.5%	1757	3.5%
家庭内の不和	921	1.7%	2424	1.9%	883	1.8%
生活リズムの乱れ・あそび・非行	5488	10.3%	10953	8.6%	7519	15.0%
無気力・不安	21927	41.1%	50471	39.5%	16923	33.8%
該当なし	2974	5.6%	6894	5.4%	4419	8.8%
合計	53350	100%	127922	100%	50100	100%

※学校種別は、文部科学省の分け方に準ずる。（ただし、諸課題調査には通信制高校は含まれない）

〔別添〕

(8) 子どもの不登校により、保護者の方が困っていること（困っていたこと）がありましたら教えてください。【複数回答可】



〔図9〕子どもの不登校により保護者が困っていること

※無回答：12件

〔別添〕

その他：

- ・遊び相手を見つけにくい
- ・精神的にバランスを崩した子どもが 強迫性障害を発症した
- ・学校が何とかして来させようとする行為
- ・子供の学習の機会の損失
- ・社会の偏見が根強い
- ・全て母親の肩にかかってくる。相談しても的外れな回答がされたり、色んな考えに振り回され正解が分からず疲れる。
- ・毎日のお昼ごはんの準備
- ・子供が常に家に居るので息抜きできない
- ・子供の気持ちと学校の方針の板挟み
- ・子供の不登校を通して逆に自分の価値観がアップデートされ視野が広がりました
- ・その時期によって悩みは変化しましたが、最終的には困りごとは無くなっていました。
- ・子供の状態が不安定だと目が離せなくなるし、色んな事を試行錯誤して試すのでお金もかかるし、学校には被害を受けた側の任せてくださいと葛藤や苦悩は解ってはもらえない。子供の対人恐怖や鬱やPTSDで学校にも行けなくなりトラウマの治療にも時間がかかる。不安定だと母子分離が出来なくて付きっきり。親もストレスで体調を崩すけど、上の子も下の子に当たられてぼろぼろだった。つねるや蹴る押すなどあった。マウンティングしてくる親子の言葉に傷付いて抉られ自殺を考えてた事もあった。

など

※その他についての全記述内容（別紙⑥）については、リンク先またはQRコードをご参照ください。

https://miraitizu.com/wp-content/uploads/8_all_2104.pdf



〔別添〕

（9）上記（8）で選択していただいた回答について、詳細を記載していただける方は下記にお書きください。（100文字以下）

<回答数：518件>

- ・24時間毎日一緒。息抜きできない
- ・家で、子どもが精神的に疲れ切っている状態を見ているのがつらいです。
- ・学校は、学校へ来られない子供が悪いという雰囲気だった。行けない子供の気持ちに寄り添ってもらえなかった。
- ・高校は義務教育ではないため、学校側に相談しても親身になって対応をしていただけなかった。
- ・相談先がわからない事と、スクールカウンセラーのアドバイスも無い。聞いてるだけで、情報が無い！経験した親の方がよほど相談にもなり、情報やアドバイスが受けられると思う！
- ・母子家庭ですが、小一を1人で置いておけず、祖父母などの預け先もなく、仕事がままならず、収入も減り困っています。
- ・子どもに学んだり体験の機会を与えようとする、全て実費がかかること。田舎なので偏見がすごく、それが子どもに直接及ばないように常に気を張る必要があること。など。フリースクールも実費
- ・区の施設に行っても中学生ばかり、フリースクールも四年生以上等、低学年の子の居場所がなかった。
- ・学校に戻って欲しいという気持ちが捨てられず、けれど先は見えず苦しみました。将来の不安、周囲から置いていかれる孤独感、悲しさなどが強かったです。
- ・上の子が行けなくなって、下の子にも影響が出て、兄が行かないから自分を行かないと行き渋るようになってしまった。二人とも行き渋るようになり、私自身のメンタルが崩壊し、常にイライラしてしまっている。

など

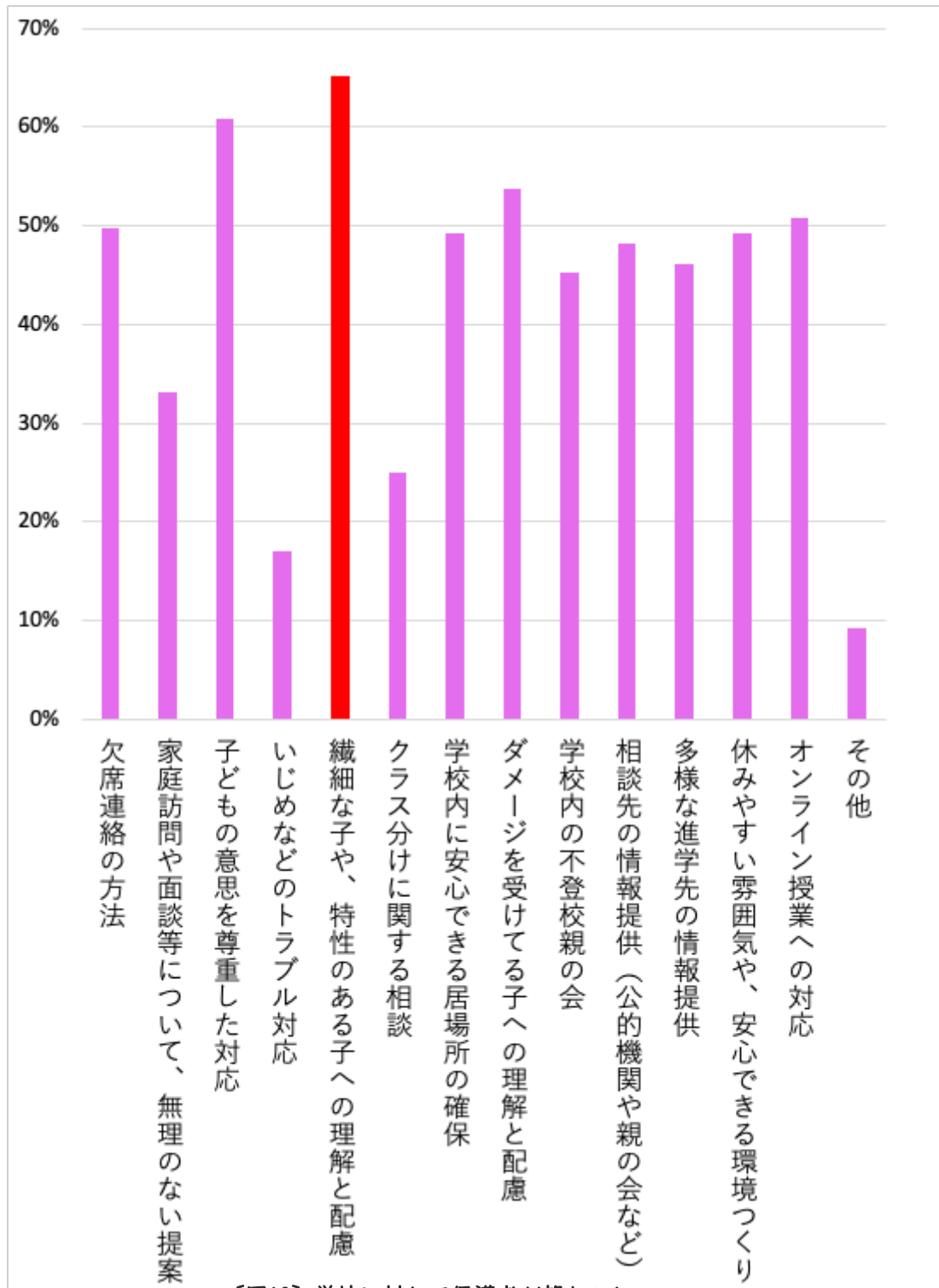
※その他についての全記述内容（別紙⑦）については、リンク先またはQRコードをご参照ください。

https://miraitizu.com/wp-content/uploads/9_all_2104.pdf



〔別添〕

(10)学校に対して、保護者の方が望むことがありましたら教えてください。【複数回答可】



〔図10〕学校に対して保護者が望むこと

〔別添〕

〔表4〕 学校に対して保護者が望むこと

	全体 (1064人)	小学生 (583人)	中学生 (396人)	高校生 他 (85人)
欠席連絡の方法	49.8%	54.0%	44.4%	45.9%
家庭訪問や面談等について、無理のない提案	33.2%	35.0%	32.6%	23.5%
子どもの意思を尊重した対応	60.9%	65.0%	58.3%	44.7%
いじめなどのトラブル対応	17.1%	16.1%	20.2%	9.4%
繊細な子や、特性のある子への理解と配慮	65.1%	73.1%	59.6%	36.5%
クラス分けに関する相談	25.0%	25.2%	26.5%	16.5%
学校内に安心できる居場所の確保	49.2%	56.3%	44.2%	24.7%
ダメージを受けてる子への理解と配慮	53.7%	55.8%	53.0%	42.4%
学校内の不登校親の会	45.3%	47.9%	44.4%	31.8%
相談先の情報提供(公的機関や親の会など)	48.1%	49.1%	49.0%	37.6%
多様な進学先の情報提供	46.1%	43.4%	52.3%	36.5%
休みやすい雰囲気や、安心できる環境づくり	49.2%	54.2%	45.7%	30.6%
オンライン授業への対応	50.8%	53.7%	49.8%	35.3%
その他	9.2%	10.5%	7.3%	9.4%

※無回答：13件

その他：

- ・ 学ぶ選択の自由
- ・ 不登校児兄弟への配慮
- ・ 成績重視からの脱却
- ・ 生存確認は学校の役割なのか疑問です。
- ・ 不登校初期には無理に学校へ戻さずじっくりと受けた傷を癒すのが先決です。あなたは悪くないって虐めを受けた子に言ってあげて欲しい。加害者より被害を受けた側を守って欲しい。

〔別添〕

- ・前の学年の担任がやってくれた事を次の担任へちゃんと引き継いで欲しい。支援級担任の当たり外れが子供に大きく影響を与える。
- ・学業費、給食費等配慮。宿題やプリント等の配布。宿題は出されてもやれる状況ではないので要らない。プリント受け取りたくない。クラスメイトに無理矢理書かせているであろう復帰を望むお手紙は、プレッシャーで要りません。

など

※その他についての全記述内容（別紙⑧）については、リンク先またはQRコードをご参照ください。

https://miraitizu.com/wp-content/uploads/10_all_2104.pdf



（11）上記（10）で選択した内容について、詳細を記載していただける方は下記にお書きください。（100文字以内）

<回答数：472件>

- ・どのように対応して欲しいか問われても、知識も経験もないのでどう配慮をお願いしたらいいかわからない。窓口となり、過去どんな対応をしたことがあるかなど、一緒に考える体制があれば相談しやすかったと思う。
- ・教室以外の安心できる場所の提供。担任の先生にも負担をかけないよう専用のかたがいてほしい。
- ・発達障害の特性に対する理解がないし、説明しても前例がないからダメと言われた。
- ・当初は学校へ行きたくても布団の中で身体が固まり涙を流していた。無理強いはいできない。本人の気持ちを尊重したい。
- ・たった5分の用事(配布物の受け取り、または提出など)でも制服の着用を強要された。ハンガーに掛けた制服を見ながら何時間も泣いていた子供の気持ちを分かってくれなかった。
- ・子供が不登校になり、自分自身も不安定になり仕事をやめました。給食費等止められる費用について早めに教えてほしかったと思いました。
- ・起立性調節障害で休みがちになり部活を休むようになった。それを受け入れてもらえなかった。
- ・学校に登校しなくても学ぶ機会を作ってほしい。
- ・高校では、保健室登校や別室登校が認められていないので、登校がさらに難しくなります。
- ・学校内の不登校の保護者同士で話すことができたらいいな、と思うので学校内での親の会があったら是非参加してみたかった。

など

※その他についての全記述内容（別紙⑨）については、リンク先またはQRコードをご参照ください。

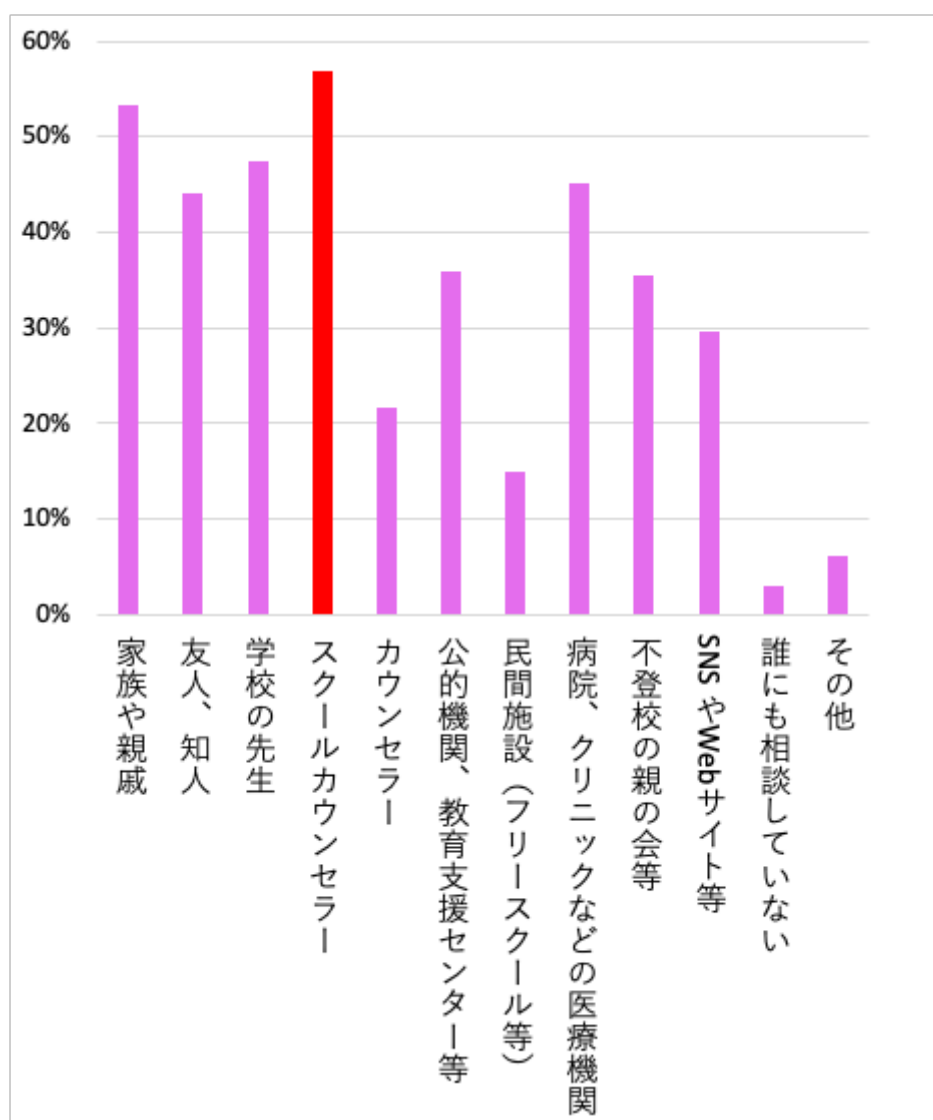
https://miraitizu.com/wp-content/uploads/11_all_2104.pdf



〔別添〕

(12) 不登校について誰に相談しているか(していたか)を教えてください。

【複数回答可】



〔図11〕 不登校について誰に相談しているか

※無回答：1件

〔別添〕

その他：

- ・放課後等デイサービス
- ・ブログを読む
- ・塾の先生
- ・相談しても正論ばかりで母が傷付けられるだけだから公的機関には相談しない。
- ・家では元気なので相談したくなかった。学校行くと下痢するので病院に行った。
- ・スクールソーシャルワーカー
- ・親の会に参加したいがコロナ禍でどこもやってないです。
- ・田舎には適切なカウンセラーが居ない。話したい時には誰も居ない。不登校の会でさえ月一回しかない。その日には全て終わってしまっている。

など

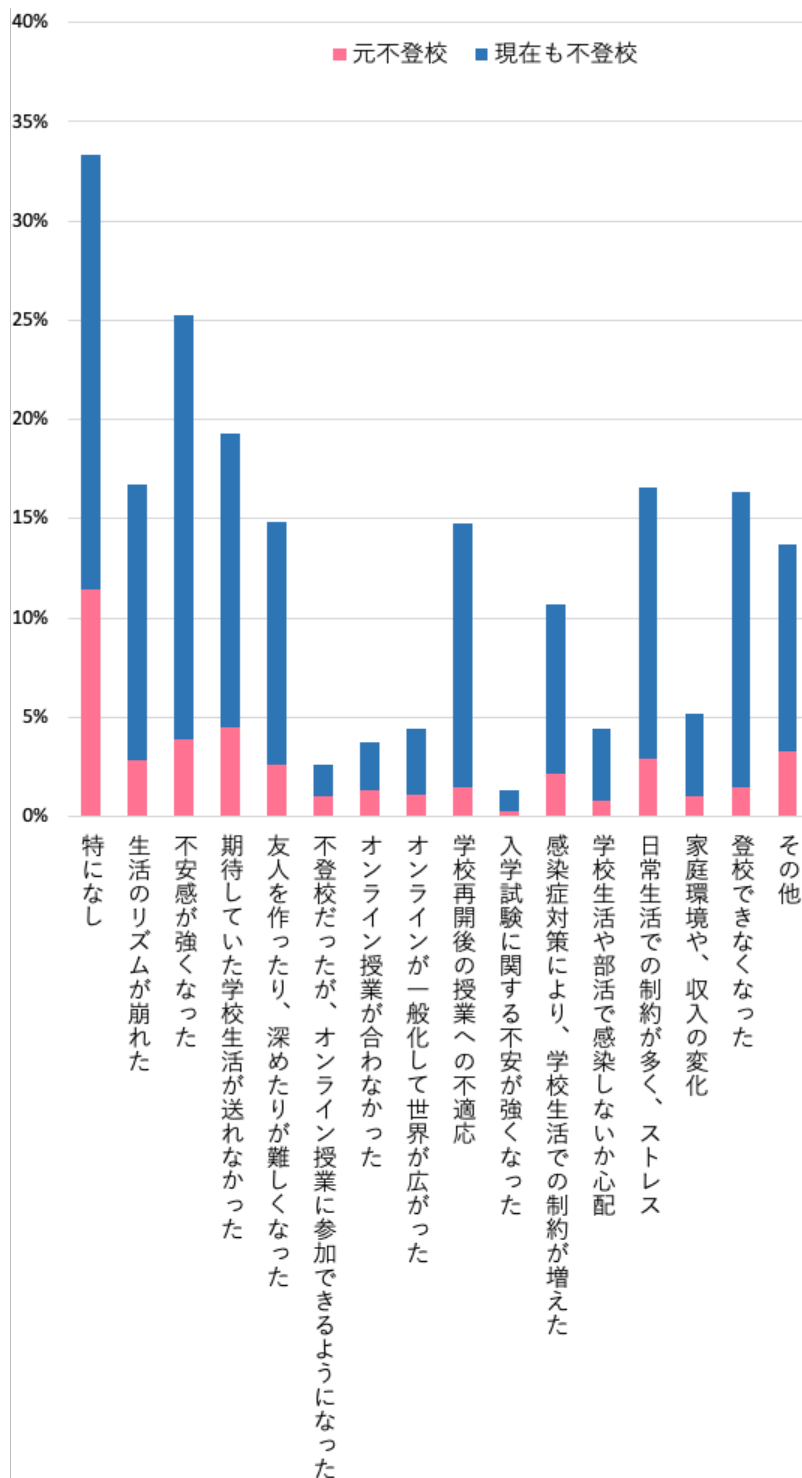
※その他についての全記述内容（別紙⑩）については、リンク先またはQRコードをご参照ください。

https://miraitizu.com/wp-content/uploads/12_all_2104.pdf



〔別添〕

(13) 新型コロナウイルス感染症が、お子さんに与えた影響があれば教えてください【複数回答可】



※無回答：32件

〔図12〕 新型コロナウイルス感染症が子どもに与えた影響

〔別添〕

その他：

- ・休校、分散登校がきっかけで登校できるようになった
- ・公共の乗り物での通学を嫌がるようになった
- ・進路を考えるきっかけとなった。（県外の大学を受験せず通信制の大学に進む予定）
- ・不登校だったので学校自体が休みになり気が楽になった
- ・昨年度分の欠課補習が行えず、高校への内部進学への道が厳しくなった
- ・コロナ以前は別室登校を少ししていたがコロナ対応により一回目の緊急事態宣言解除後に別室が受け入れてもらえなくなり登校ができなくなった。
- ・教員間の連携ができておらずオンラインの課題が通常授業より膨大な量となって追い詰められ自己否定が進んだ
- ・うちの場合は学校への恐怖がまだあるのでむしろコロナで有意義な時間が過ごせ自宅学習がどんどん進んだ
- ・不登校中に全国一斉休校になり本人は気持ちが軽くなったようだ。登校再開のタイミングで学校に行けるようになった。

など

※その他についての全記述内容（別紙⑪）については、リンク先またはQRコードをご参照ください。

https://miraitizu.com/wp-content/uploads/13_all_2104.pdf



（14）あなたが理想とする学びの場について、具体的なイメージがありましたら自由にお書きください。（200文字以内）

<回答数：566件>

- ・個別の学習対応と自由な登校、授業に参加しなくても居られる居場所がある学校。
- ・少人数クラスで個性に対応できる。
- ・何をどんなペースで学ぶかを自然に選べる場であれば理想です。
- ・みんなが笑顔になれる場。
- ・集団とひとまとめにせず、選択肢がいろいろあること
- ・障害があってもなくても、誰もが学べる学校であってほしい。成績や評価で、受験勉強するための学校ではなく、お互いを認めあって、心や身体も成長出来る場所であってほしい。学校の先生も子どもたちも、楽しく1日が過ごせるそんな場所であってほしいです。
- ・数字に表れない不登校児も多いと思います。理由も様々だと思います。なので学校だけが必ずしも学びの場ではなくて良いはずです。不登校というマイナスイメージの言葉を払拭するような、広く自由な居場所が良いのでは。またそういう居場所が広く世間に当たり前に浸透することも必要だと思います。

など

※本設問の全記述内容（別紙⑫）については、リンク先またはQRコードをご参照ください。

https://miraitizu.com/wp-content/uploads/14_all_2104.pdf



〔別添〕

(15) 今まで受けた支援や配慮で嬉しかったことや、改善されたことがありましたら教えてください。(200文字以内)

<回答数：552件>

- ・別室にいつでも自分の意思でいける。別室で勉強のサポートをしていただけたこと。
- ・学校への欠席連絡が辛くなってきた時に、先生から出席の日の連絡で大丈夫ですよとおっしゃって頂き、心が軽くなりました。
また、進路を考えるにあたり、一つ一つ丁寧に子供の意思確認をして、一緒に寄り添って考えてくれたので、親も焦らずしっかり向き合う事ができました。
- ・クラスの担任が親の意向に沿って、子どもに接触しないでいてくれた。子どもがまた学校に行きたくなった時は、仲の良い子がいて少人数の支援クラスに行けるよう手配してくださって、今は安心してほぼ毎日通学するようになっている。
- ・不登校になる前の担任からは、クラスでパニックになり固まって動けない時すぐに他の居場所を作ってくれたり、親に確認を取ってから子供のいない時にクラスの子供達にうちの子供の特性を話して、どう対処したら良いか皆んなに話してくれた。
- ・担任や友だちの希望を聞いてもらえた。先生が親身になってくださった。
- ・小学校でタブレットの支援を申し出たときに、すぐに翌日から持ってきて大丈夫ですと言ってもらったときです。担任、校長に理解がありました。クラスの子たちにも上手に説明してくれて何もトラブルなしでした。それから本人のモチベーションが上がり、登校するのを嫌がらなくなりました。
- ・学校を通して、スクールソーシャルワーカーの方を紹介していただいて、そこから、相談員の方も紹介していただき、学校以外の相談する方が出来たこと。療育の病院にも同行してくれるため、子どもが母や学校の先生以外の方と関わりがもてるようになったこと。
- ・家と学校以外に居場所があったこと。また、そこで出会うスタッフさんやボランティア(主に大学生)さんからいい影響や刺激をもらい、一緒に遊び、勉強(興味のある内容のみ)もして、自信が付き自己肯定感もぐんと上がった。
- ・不登校の子供を持つ先輩ママからのアドバイスや経験話。子供に対する気の持ちようだったり、接し方を変える事ができました。

など

※本設問の全記述内容(別紙⑬)については、リンク先またはQRコードをご参照ください。

https://miraitizu.com/wp-content/uploads/15_all_2104.pdf



〔別添〕

（16）兄弟姉妹がいることや、またはいないことで困っていること（困ったこと）がありましたら、教えてください。（200文字以内）

<回答数：470件>

・登校しているほうの姉には宿題を急かしたり、朝起きてくるまでしつこく起こしたり…不登校のほうの子には許していることも制限したりしていて、この姉妹の対応のギャップが毎日葛藤の連続です。

・3歳下の妹も行き渋りが始まりました。兄の不登校を受け入れている以上、妹の「学校へ行きたくない」という気持ちを無下にできず、両方の対応に精神的に参りました。中学校よりも小学校の方が、登校刺激は強いかな、と感じました。

・きょうだいも、不登校の子に対して、ずるい、サボり、などと蔑むことが、親として何より辛く苦しい。

・上の子が不登校で、下の子は渋々学校に通っている状態でした。上の子は「妹は行きたくない学校に頑張っているのに自分は……」ととても落ち込んでいました

・私と本人との親子バトルを部屋の隅で妹、弟が見て我慢していたので申し訳なかったとしみじみ思います。

・担任が兄弟に何で妹は来ないんだ？とみんなの前で聞いてくる。兄弟も恥ずかしくて学校に行きにくくなった

・受験などの大切な節目にほとんど構ってあげられなかったどころか、家庭内は戦場の様で、塾などに避難して勉強していたようなので、申し訳なかったと思う

・子どもが一人であるため、学校にいかなくなると途端に孤立しました。しかしながらきょうだいがいない分、学校にたいする刺激は少なくて済んだかとおもいます。

・子ども2人とも不登校経験者です。学校へ行けない気持ちがお互いにわかるみたいで、2人は仲が良いです。片方の気持ちが分からない時は、もう1人に聞くと、そういうことかとかわかって助かりました。

・下の子供が不登校。上の子なりに理解しようとしてくれた。一緒にゲームとかをしてくれたので、うちはいてくれてよかった

など

※本設問の全記述内容（別紙⑭）については、下記リンク先またはQRコードをご参照ください。

https://miraitizu.com/wp-content/uploads/16_all_2104.pdf



〔別添〕

(17) お子さんが元気になったきっかけがありましたら教えてください。

(200文字以内)

<回答数：590件>

- ・親が自分の人生を楽しみだしたこと。
子どもの好きなゲームやYouTubeに興味をもったら、嬉しそうにしていました。
- ・とにかく本人を信じて、休ませたこと。学校や勉強を排除して、何もしていないありのままの息子を受け入れたこと。
- ・同じ不登校の友人が出来たことです
親の会で知り合って遊びに行ったのがきっかけで外出するようになりました
- ・不登校の子が集まるクラスを作ってくれた。その担任になった非常勤の先生が何も無理強
いせず、少しずつ遊びから信頼関係を作ってくれて、勉強までできるようになったこと。
- ・上がったたり下がったりを繰り返しながら全体的には上向いていると思いますが、特にこれ
といったきっかけは思いあたりません。
あれこれ考え込みがちなタイプで、自分で本を読んだり気持ちをノートに書いたりしながら
自分を見つめ、折り合いをつけているようです。
- ・まずは私が受け入れて、どうせ休むならゆっくり休んだらいい、という意識になったこと
です。たくさん休んだら、暇になり始め、映画や一人ランチなどに外出するようになりました。
そのあと学校に行きたいという気持ちになり、友達や先生と仲良くなり、楽しくなった
ようです。
- ・学校で辛くなったときに休憩を申し出ることができるようになった。先生と約束して、休
憩をOKしてもらえようになったこと。あと行事や慣れないことにはとにかく見通しが立て
られるようスケジュールを提示してもらえること。
- ・親子でしっかり話し合い、ホームスクーリングで行くという方向性が固まったとき
- ・登校を促すことをきっぱり止めたこと。学校というワードを一切出さなくなったこと。子
どもの興味にできるだけ付き合い、一緒に体験することを増やしたこと
- ・「学校に行かなくていいんだよ」と伝えて暫くしてから、「その言葉には本当にホッとし
た ありがとう」と言われました。
- ・持病の為登校できない状況で教師や学校の無理解な対応で酷く傷つけられた。それからは
大人（学校関係者）を「敵か味方か」と判断するようになった。自分の事情を理解してくれ
「味方」と思える大人の存在があると知り、学校全体が理解を示してくれる環境になってか
ら「気力」が出るようになり、体調不調でも無理して登校するようになった。

〔別添〕

- ・不登校でもいろいろな高校がある事をしり少しずつ元気になっていった。
- ・オンラインのゲーム仲間との通話です。人と話す事で自信を取り戻して行けたみたいです。
- ・フリースクールの先生方が文字通り本人に寄り添って下さったからです。「先生」という職業の大人にもこんなに素晴らしい人たちがいるんだ、と気付かせて下さいました。(それでも心を開くには大変時間がかかりました。)
- ・適応相談センターに通うようになり、友だちができたり、自分は学校以外の選択をしてるだけという自信がついて元気になりました

など

※本設問の全記述内容（別紙⑮）については、リンク先またはQRコードをご参照ください。

https://miraitizu.com/wp-content/uploads/17_all_2104.pdf



（18）不登校全般について、ご意見がありましたらお書きください。（500文字以内）

<回答数：570件>

- ・どんな熱心な支援でも、学校が苦手な子の理解がかけていたら残念な支援になってしまう。まずは子どもの気持ちの状態を知る事が大事だと感じるが、普段学校に元気に来ている子ども達を相手している先生にとってはなかなか理解しがたい現実もあると思います、残念ながら。
- ・学校の方針や先生方の熱意によって支援が違う。その子どもにあわせた支援が出来ないなら無理に通わせようとしないでもいいのではないかな。無理に連れて行ってほったらかしにされてももとのもくあみ。毎日これでは親は続かない。学習の支援だけでもしてくれる方が良くかもしれない。
- ・心の不調や、自律神経の不調などの知識を、思春期前の親と子どもに教えてほしい。学校の先生にも知識を持ってほしい。不調になかなか気づけず、怠けているのかと思って悪化させてしまうことを防ぎたい。
- ・学校へ通う一択だから不登校、なのであって、高校だと定時制や通信制もある。小学校から、通信制のような、行ける時に通い、難しいならオンライン、などの柔軟性があれば、そもそも不登校なんて言葉はなくなると思う。

〔別添〕

・学校へ行き渋るようになった期間を含めると、7~8年だが、この短い期間にも、不登校への理解が世間に広まったと感じる。コロナ禍でのオンライン普及は、不登校児童生徒にとって良い流れだと思う。コロナの早期終息を願いつつ、オンライン授業はそのまま拡充されたら良いのに、と強く思う。

・行きたくても学校へいけない現実をもっとわかって欲しい。学校へ行くのは当たり前という日本の風潮が消えなければ子供の学校に行っていない事からくる罪悪感は消えなくて毎晩の様に泣いている子供をみるのが辛い。

・不登校の原因は様々だと思いますが、先生の理解と協力は欠かせないと思います。学校のなかでどうなっているのか見えない親の心労は半端でない。

・不登校支援周辺について。不登校の負のイメージを変えたいあまり、持ち上げたり個性という概念に置き換えたりすることには抵抗を感じる。つらい事はつらい、ありのままの受け止めを模索しています。

・不登校でも遊んでいい！とにかく子どもたちとご家族に笑顔で楽しく過ごして、元気を取り戻して欲しいです。

・子供に「学校が全てでは無いよ」と言いつつも、不登校でいいんだよ！と100%思えてない自分がいます。きっと子供には伝わっているんだろうな~って思います。子供の気持ちを理解出来ないのがしんどいです。

・不登校になった瞬間、世界が一変します。衝撃に耐えられず、自分から情報を取りに行くこともできない人も多いはず。一番最初に学校から、どんな支援があるか、親の会や居場所の情報など、不登校親子にすぐアクセスできる情報をストックしてほしい。何より、先生たちにもっと現状を知ってほしいです。一番詳しくなってほしい

・不登校を治すと触れ込みの商売やハウツー本がありふれていて、孤独に悩んでいる親はそこに飛びついてしまう。

その前に、経験値をさらけ出して抜け出した人、最中の人のお話が聞ける場がもっと身近になり、当事者親子を苦しめていると思う。

・地方在住ですが、不登校になると本当に行き場や学ぶ場がない事を痛感しています。教師の意識も低い場合は、本当にどうしたらいいかわからず悩みました。できれば、不登校児親の会のようなところが身近にでき、もっと気軽に話ができるようになればいいです。

・不登校が問題、解決すべきもの、という価値観がしんどいです。不登校でも大丈夫！なんとかなる、なんとでもなるから、と支援してくれる人が増えたら嬉しいです。

・不登校であることの疎外感を何とかしたいです。学校だけが世界じゃない。世の中は広い。学校に行けなくたって人生は終わりじゃない。いくら伝えても「学校」という子供の

〔別添〕

での絶対的割合は大きく、それを変えようとするのは無理です。だからあらゆる生き方を自然に子供に見せていけるような、

・娘が不登校になり、母親の私自身が不登校の事に全然知識がないことに気づき、どう対応したら分からなかった。なので不登校を経験していない人は不登校の人をなかなか理解している人が少ないと思う。これは学校の先生にも言える。学校に最低1人でもいいから不登校担当の先生がいるといいと思った。不登校の親の会は最近、増えてきたが、当事者である不登校の子どもの会がほぼないのかなと思う。確かに不登校の子どもは話すのは大変だけど、子どもたちが吐き出す場があるといいなと思います
不登校の親の会は、私の心のよりどころです。

など

※本設問の全記述内容（別紙⑩）については、下記リンク先またはQRコードをご参照ください。

https://miraitizu.com/wp-content/uploads/18_all_2104.pdf



以上

〔別添〕

改訂履歴

2023年12月7日 問い合わせ先のアドレスを info@miraitizu.com に変更

2025年3月11日 結果報告との相互リンクを更新